

各種大会で優秀な成績を収めた方・団体を紹介します。

# がんばりすど

## 第17回清瀬市スーパードッジボール大会入賞者



上から「ピスタチオの帰還」「みどりの風雲児」「燃えろ！八小女魂」チームの出場者

2月6日・13日、市民体育館で毎年恒例のスーパードッジボール大会が開催されました。試合結果は次のとおりです。

◆2月6日実施

―3・4年生の部（27チーム・23人参加）

優勝Ⅱピスタチオの帰還（清明小）、準優勝Ⅱフルコンズ（芝小）、第3位Ⅱゴットエンド（四小）、七代目ジェイソウルブラザーズ（七小）

◆2月13日実施

―5・6年生男子の部（23チーム・189人参加）

優勝Ⅱみどりの風雲児（清明小）、準優勝Ⅱえがちゃんズ（八小）、第3位ⅡサムライJAPAN9（三小）、おつまみポリポリズ（十小）

―5・6年生女子の部（11チーム・87人参加）

優勝Ⅱ燃えろ！八小女魂（八小）、準優勝Ⅱハッピーモンキーズ（三小）、第3位Ⅱプリプリのプリキョア（四小）、スマイル（八小）



## 東京都クラブユース選手権大会（U-14）で清瀬のチームが準優勝



2月14日、味の素フィールド西が丘（北区西が丘三丁目）で、東京都サッカー協会主催の「第23回東京都クラブユース選手権大会U-14選手権大会」が行われ、清瀬市サッカー連盟所属の中学生チーム「FCコンソルテ」が決勝に進みました。

決勝の相手は、JリーグのジュニアユースFC東京深川で、素晴らしい環境での試合に緊張をしながらも勢いに乗って2点を先取。残り3分で逆転を許しましたが、強豪相手に大健闘の2位という結果を収めました。

**3本の木とともに**

何事のおわしますかは知らねども、ありがたきかな不思議の連鎖。前号では「成人式で奇跡の話をした事」から書き始め、成人式の感動を表現した中村清治議員の詩で結びましたが、私の身近な人がまた「奇跡」に出会いました。

先月11日、その人は幼稚園の庭の樹木せん定をしていた時、地上4メートルから、頭から落下し武蔵野赤十字病院に搬送され、超激痛のなか、手術は17日に行われ、頸椎4か所をボルトでつないだ。（以下、その人の言葉）、「この間、麻酔薬と睡眠薬を時間を置いて打つが、激痛と幻覚は続く。すべて恐ろしい。痛みと苦しみが続き、その苦しみに耐えられず叫んだのは、「じいちゃん、ばあちゃん、とうちゃん、かあちゃん、俺の母ちゃん、子どもたち、ごめんね。俺も若いうち、良いことも悪いこともやってきたけど、神様、天国でも地獄でもいいからお導き下さい。」とお願ひする。「みんなごめんね。もう我慢できないよ。」と何度



も叫んだ。幾夜過ごしたのだろうか。17日に手術が終わった。今でもはつきり覚えていますが、それは、まぶたがパッチンと音がして、目が覚めたのです。その瞬間、「あつ。生きています。生かされた。もう小さなことに惑わされず、もっと大きな目標に向かって歩みなさいと言われたように感じた。身体は五体満足で動きます。本当に幸せである。先生をはじめ、多くの看護師さん、スタッフの皆さん、わがまま・お手数をかけました」と思ったそうです。

そういえば、5月21日から全国公開される、清瀬旭が丘団地が主たるロケ地の映画「海よりもまだ深く」の是枝裕和監督（カンヌ国際映画祭受賞）も次なるコメントを寄せています。「自分が死んだ後に、神さまか閻魔さまの前に連れて行かれて、お前は下界で何をしたんだ、と問われたら、真っ先にこの「海よりもまだ深く」を見せると思う」。

さて、もう一つ、不思議の連鎖です。先月24日に世界医療文化遺産に向けて、北里研究所総務部次長を結核研究所、東京病院外気舎、フロンティア神父の東星学園にご案

内して、あらためて北里さんご縁があると感じました。

まずは、私が園長をしていた幼稚園の卒園児が看護師となり、2年位前に北里大病院院長のご息子の医師と結婚し、披露宴に招かれ、お祝いのあいさつをしました。二つ目は、結核予防会工藤翔二理事長、複十字後藤元院長は、ノーベル賞を受賞された北里大村智教授と長年研究を通して親しくされてきたそうです。三つ目は、次長を東星学園にご案内した時、大矢正則校長から、お嬢さんが北里大学院生だということを知られまされた。四つ目は、先月28日、法事の席で、本家から聞いた話で、群馬に嫁いだ娘の子どもが北里大薬学部に通っているとのことでした。

ありがたい！ 感謝感謝です。

※2月15日号で紹介した中村清治議員の詩「涙ぐむ成人式」のなかで、「人生の中で1回の出会い、永い永い時の流れの中で、一瞬瞬きをした様な驚きと感動に、心が潰された。未来ある20歳の青春は、心が癒された。未来ある20歳の青春でした。」

清瀬市長 **渋谷金太郎**

# まちかどニュース

身近なイベントや、まちかどの話題を皆さんから募集しています。

## 市内の農家の方々が受賞

- ◆第55回企業の農業経営顕彰 東京都知事賞・東京都農業会議会長賞Ⅱ村野茂・和子さんご夫婦（上清戸）
- ◆第55回企業の農業経営顕彰（集団活動） 全国農業会議所会長賞・東京都農業会議会長賞Ⅱ清瀬市酪農組合
- ◆第35回農業後継者顕彰 全国農業会議所会長賞・東京都農業会議会長賞Ⅱ荒井大悟さん（下清戸）、東京都知事賞・東京都農業会議会長賞Ⅱ岩田英明・悦己さんご夫婦（旭が丘）
- ◆第42回農業委員会等功労者表彰 農業功労者感謝状Ⅱ松村吉男さん（中里）
- ◆平成27年度北多摩北部地区農業委員会連合会優秀農業経営者表彰 二上晃三さん（野塩）



右から岩田悦己さん・英明さん、清瀬市農業委員会松村会長、松村吉男さん、村野茂さん、清瀬市酪農組合 山下浩さん・野島正見さん、二上晃三さん

## 市内中学生が「東京駅伝」で活躍・駅伝応援実行委員会よりベンチコートを寄贈



寄贈されたベンチコートを着た中学生チームの選手たち

2月7日、味の素スタジアム（調布市西町）で、市区町村対抗の「第7回中学生『東京駅伝』大会」が行われました。市内の中学生が出場し、男子は過去最高の17位、女子は39位でした。

また、大会に先立ち、清瀬商工会会員をはじめ市内有志の方々による「中学生『東京駅伝』応援実行委員会（実行委員長 田中宏氏）より、選手用のベンチコートを寄贈いただきました。



円陣を組み気持ちを高める選手写真上と、準優勝の成績を収めた選手たち

## 清瀬 ごとも俳句

小・中学生の俳句を紹介するコーナー。ぜひ応募ください。 選評Ⅱ石田波郷俳句大会実行委員会

●ふゆのあさどあをあげたらかぜがふく 二年 野村悠生  
（評）「早く閉めなさい」というお母さんの声が聞こえてきそうな一句。おとなから見れば当たり前の一句だけれど、子どもは行動のすべてが発見の連続。こうして冬の外気の冷たさを五七五でとらえていく。

●にじみえたともきれいだあしたはれ 三年 金森友里愛  
（評）この句では虹が「季節」になる。俳句は、こうした日本の四季感と歴史がはぐくんできた季節の言葉「季節」に自分の気持ちを託して作っていく。その気持ちの表現が下五の「あしたはれ」。この気持ち、伝わるよ。

●かしわもちがすハッ葉がじれったい 三年 三井風花  
（評）季節を感じさせてくれる言葉「季節」は、自然の移り変わりだけではない。季節ごとにできるお菓子や料理、飲み物も大きな季節の分野。この句はそうした季節のお菓子の特徴を子どもらしく表現してくれた。

●ぼくのあしスタンプみたい夏の海 三年 渡辺咲希  
（評）「そっだよな」という共通の感情を誘導してくれる「季節」があるから、たった十七音の短詩「俳句」は成立する。この句は夏の砂浜の情景。そっだよな、足跡を見るとスタンプを押しているみたいだよ。これで一票。

※今回の俳句は、六小（まなべ）で行った「俳句学習」からの選句です。